

平成 13 年 11 月 01 日

国際石油開発(株)(インペックス)
東京都渋谷区恵比寿 4 丁目 1 番 18 号
代表取締役社長 松尾 邦彦

国際石油開発(株)(インペックス)の既発見鉱区における
権益の追加取得および新規資本参加について

【 1. カザフスタン共和国北カスピ海沖合鉱区での権益追加取得 】

インペックス北カスピ海石油(株)

当社は、本年 8 月 16 日先買権を行使し、権益追加取得により本鉱区での当社の権益比率は
現行の 1/14(約 7.14%)から 1/12(約 8.33%)に増加する予定。

【経緯】

1. 当社は 1998 年 9 月、カザフスタン政府およびカザフオイル社との間で締結した権益譲渡協定に基づき、本鉱区に係る 1/14 の参加権益をカザフオイル社より取得。
2. 本年 5 月および 6 月、本鉱区に事業参加している BP 社 {権益比率 : 2/21(約 9.52%)} および Statoil 社 {権益比率 : 1/21(約 4.76%)} は、TOTALFINAELF 社(TFE 社)との間で両社が保有する全権益を譲渡するための権益譲渡に合意。
3. 当社をはじめとする同鉱区におけるパートナー全社 {ENI-Agip 社(オペレーター)、BG 社、ExxonMobil 社、Phillips 社、Shell 社、TFE 社および当社} はそれぞれ同事業の共同操業協定に基づき本権益譲渡に対して先買権の行使を表明。現在、権益譲渡に必要な手続きを実施中。

【権益追加取得事由】

1. 本鉱区では、鉱区内最大の Kashagan 構造に掘削された試掘井 2 坑により原油が発見されており、今後同構造が超巨大油田となるポテンシャルが極めて大きい。権益の追加取得により将来の取得原油量の増大が期待される。さらに下記(現況)に記載のとおり、これに続く評価作業においても良好な結果を得つつある。
2. シェアアップにより、資金収支及び経済性の向上が期待される。

【現況】

本鉱区では、昨年 7 月試掘第 1 井(Kashagan East-1)にて原油の発見に成功し、これに引き続き、本年 5 月、1 井より約 40km 離れた地点に掘削された試掘第 2 井(Kashagan West-1)にても原油の賦存を確認した。

さらに、本年 10 月には Kashagan 構造の東部に掘削した評価井第 1 井(Kashagan East-2)より産出テストの結果、日産 7,400 バレルの原油の産出を確認している。

備考：インペックス北カスピ海石油(株)株主構成

石油公団 50%、インペックス 45%、石油資源開発 2.5%、三菱商事 2.5%



【 2. ブラジル連邦共和国カンポス沖合フラージ鉱区での権益追加取得 】

インペックス北カンポス沖石油(株)

当社は、Odebrecht 社(ブラジル企業)が同鉱区に保有する権益 2.25%をブラジル国家石油庁

(ANP)の承認を得て 7 月 31 日付で追加取得したことにより権益比率が現行の 12.75%から 15%に増加。

なお、当社は、本鉱区における石油探鉱開発事業を推進するため石油公団の支援を受け、国際石油開発(株)(インペックス)と日商岩井(株)により設立され、当社のブラジル法人子会社 Frade Japão Petróleo Limitada*1(以下「FJPL」)を通じて同鉱区の権益を保有している。他の権益保有者は、TEXACO 社(オペレーター)42.5%、Petrobras 社 42.5%となる。

【経緯】

1998 年 8 月、Petrobras 社は、ANP との利権契約に基づきフラージ鉱区(既発見未開発鉱区、鉱区面積 154k m²,水深 700m-1,500m)および隣接探鉱鉱区(BC-4)*3 の権益を取得。その後、1999 年 7 月、FJPL は TEXACO 社および Odebrecht 社と共に、Petrobras 社との間で権益譲渡協定を締結(2000 年 3 月、同契約発効。これにより、権益比率は TEXACO 社(オペレーター)42.5%、Petrobras 社 42.5%、FJPL12.75%、Odebrecht 社 2.25%となった}。

【権益追加取得事由】

1. 本鉱区における権益追加取得により、将来の取得原油量の増大が期待される。
2. シェアアップにより、資金収支および経済性の向上が期待される。

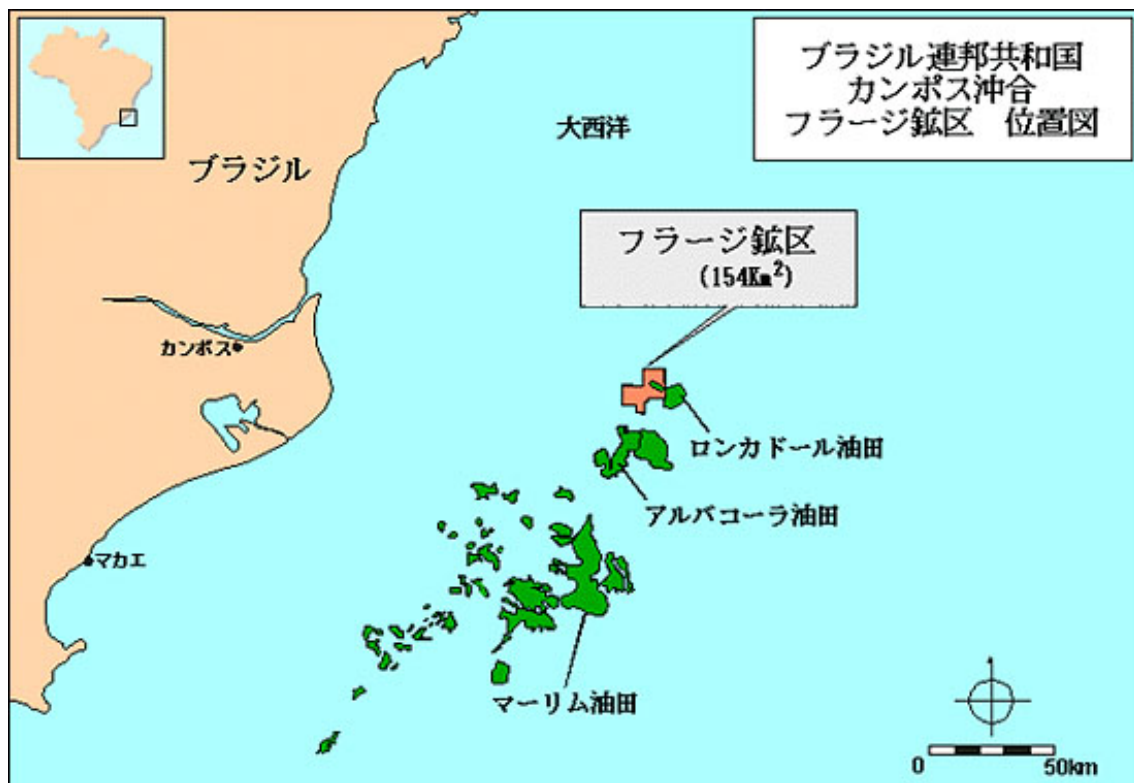
【現況】

本鉱区においては、現在評価作業を実施中。

備考

*1. Frade Japão Petróleo Limitada (FJPL)の株式は、インペックス北カンポス沖石油(株)によりほぼ 100%保有されている。(インペックス北カンポス沖石油(株)株主構成：石油公団 50%、インペックス 37.5%、日商岩井 12.5%)

*2. フラージ鉱区と同時に権益を取得した BC-4 鉱区においては、試掘 1 号井の掘削作業を実施したものの、油・ガス田の発見に至らず、探鉱期間満了を以って契約を終結した。



【 3. インドネシア共和国イリアンジャヤ州ベラウ鉦区権益への資本参加 】

国際石油開発(株)(インペックス)

今般、当社は、三菱商事(株)が取得したインドネシア共和国イリアンジャヤ州における既発見未開発の大規模ガス田を有するベラウ鉦区の 22.856%の権益の保有を目的とする同社のプロジェクト新会社へ、44%の出資比率で資本参加した。

本鉦区の大規模ガス田は、現在計画されているタングーLNG プロジェクトへ供給される天然ガスの約 70%の埋蔵量を有している。

【経緯】

1. 本年 7 月三菱商事(株)は、米国 Occidental International 社より、同社子会社が保有する本鉦区の生産分与契約上(1987 年 2 月調印、契約期間 30 年)権益 22.856%を取得した。
2. 当社は、平成 13 年 10 月 31 日、三菱商事の本権益保有を目的とする新会社 MI Berau B.V.(オランダ法人)*1 に対して 44%の出資を行った。本鉦区の権益保有比率は、別表*2 の通りである。

【当社が資本参加する事由】

1. 当社は、コア・エリアであるインドネシアにおいて年間約 2,100 万トンの液化天然ガス (LNG)を生産する世界最大の基地であるインドネシア東カリマンタンのボンタン LNG プラントへの天然ガスの最大の供給者であるが、今回ベラウ鉾区の大規模ガス田の権益を取得することは、東カリマンタンに続き 新たな LNG 事業につながるプロジェクトへの参加となり、当社にとっては戦略的価値が極めて高い。
2. また、タングーLNG プロジェクトは、世界最大の LNG 輸出国であるインドネシアにとっては、北スマトラ・アルン LNG プラントがガス枯渇問題を抱えるため、東カリマンタン・ボンタンに並ぶ安定供給ソースとして、その実現が期待されている。一方、需要家側からも、インドネシアがタングーを加えた複数のソースを 保有することによる安定供給は評価されるものであり、本プロジェクトはこのような利点を有するプロジェクトである。

【現況】

本鉾区では 1997 年に商業化宣言をし、2006 年からの LNG 生産開始を目指すタングーLNG プロジェクトにガス供給を行なうべく探鉾開発作業推進中。なお、同プロジェクト LNG プラントに使用される天然ガスは、本鉾区及び隣接するムトゥリ、ウイリアガールの両鉾区に跨って存在するガス田（確認埋蔵量：14.4tcf、内約 70%、10.3tcf は本鉾区に賦存*3）より供給される予定。MI Berau は、これら 3 鉾区からガスの供給が行なわれる場合 同プロジェクトにおいて英国 BP 社に続く第 2 位の権益を保有する。

備考

*1. MI Berau B.V.(オランダ法人)株主構成 ： 三菱商事(株) 56%、インペックス 44%

*2. Berau 鉾区権益比率(%)

会社	ベラウ鉾区権益比率
BP Berau Ltd. (オペレーター)	48
MI Berau B.V.	22.856
日石ベラウ石油開発(株)	17.144
ケージベラウ石油開発(株)	12

*3. タングーLNG プロジェクト各鉱区埋蔵量(概数)

会社	ベラウ鉱区	ムトゥリ鉱区	ウイリアガール 鉱区	タングー全体
各 鉱 区 埋 蔵 量 (tcf)	10.3	3.1	1.0	14.4
各 鉱 区 シ ョ ア (%)	71.3	21.5	7.2	100

